

笛吹市探訪

笛吹市の史跡⑤

菩提山長谷寺(春日居町鎮目)

今回の笛吹市探訪では、市の史跡である「菩提山長谷寺 ぼだいさんちようこくじ」を紹介します。

長谷寺は、春日居町鎮目字菩提地内にあり、宗派は真言宗です。「女人高野にょんにんこうや」とも呼ばれ、女性の信仰を集めました。

本尊は十一面観世音菩薩(かんぜおんぼさつ)で、その左右に控える脇持(きょうじ)は、不動明王と毘沙門天です。

寺に残る記録には、「長谷寺は養老6年(722年)に僧行基(ぎょうき)



馬鳴菩薩

により開かれ、平安時代後期には干坊と表現されるほどの寺関係の建物が建ち並んでいた」と書かれています。

それでは、春日居スポーツ広場から長谷寺へと登る道をたどりながら、長谷寺に関連する文化財をご紹介します。

春日居スポーツ広場から農道を登ると梵字橋(ぼんじばし)があります。この橋は「無常の橋」とも呼ばれる石橋で、橋の側面と裏面に梵字が刻まれており、俗世間と仏の世界との架け橋として造られました。梵字橋は、以前は山沢川に架かっていましたが、



胎内くぐりの石

また、本堂西側には「胎内くぐりの石」があります。石の真ん中には直径37・7センチメートルの丸い穴が開いていて、この穴を妊婦がくぐり抜ければ、安産になると言われています。「この石の上には、如意輪(にょいりん)観世音菩薩が安置されています。本堂西側の坂道を登ると、智恵を授かるために僧が修行をした「智の池」があります。池の中央には二段の水盤が、



智の池

周辺には水神などの石造物、光明真言塔(こうみょうしんごんとう)があります。光明真言塔は台座からの高さが149センチメートル、船の形をしていて、正面には大日如来(だいにちによらい)を意味する梵字などが刻まれています。

また、池周辺からは御坂山(みさかさん)か(い)や甲府盆地がよく見え、聞こえてくるのは鳥のさえずりや池に水が流れ込む音だけです。この場所は、修行の場として造られた時の様子を現在にまで伝えていきます。

長谷寺の本尊は、秘仏(ひぶつ)のため普段は見る事ができませんが、毎月第一日曜日午前10時から特別開帳しています。皆さんも山道を登り、長谷寺で静かな時間を過ごしてみたいかがですか。



智の池から眺める甲府盆地